

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	一般財団法人ちりゅう芸術創造協会	
施設名	知立市文化会館(パティオ池鯉鮒)	
内定額	4,442	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		305	305
年間事業本数（※1）	主催事業	77	61
	公演事業	9	4
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	22	12
	（内、本助成対象事業本数）	14	0
	普及啓発事業	33	29
	（内、本助成対象事業本数）	24	24
	その他 内容： 共催事業、展示事業	13	16
	ホールごとの貸館日数	179	201
	ホール名： かきつばたホール 座席数： 1,004	86	85
貸館日数	ホール名： 花しょうぶホール 座席数： 293	93	116
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	25,060	21,485
	公演事業	4,497	1,868
	人材養成事業	1,677	1,388
	普及啓発事業	10,431	12,824
	その他 内容： 共催事業、展示事業など	8,455	5,405
	貸館事業入場者・参加者数	64,712	59,800
	その他 内容： ホール以外の練習室等利用	79,387	95,378
	計	169,159	176,663
	施設の利用率(%)	86.0%	85.6%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	9	10	4,497	64.5%	2	3	1	3	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	7	10	2,960	58.7%	2	3	0	0	1	0	1
	貸館公演（※3）	164	178	64,712	73.3%	9	38	20	9	7	6	75
	計	180	198	72,169								
令和6年度	主催公演（※1）	4	4	1,868	82.1%	2	0	0	1	1	0	0
	共催・提携公演（※2）	3	4	1,881	71.3%	0	2	0	0	0	0	1
	貸館公演（※3）	181	201	59,800	55.3%	8	58	24	3	2	5	81
	計	188	209	63,549								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業番号	事業名	入場者数	入場者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
普及啓発事業	【指標①】事業に対する満足度について、学校・園等の事業担当教諭・保育士によるアンケートにより計測	①普-01:90%以上、普-02:90%以上	①普-01:100%、普-02:100%	いずれにおいても、「非常に満足した」「満足した」と回答する、担当教諭・保育士が全員であり満足度の高い事業が展開できた。		
	【指標②】事業参加者、公演来場者の満足度についてアンケートで計測	②普-03:85%以上、普-04:85%以上、普-05:90%以上、普-06:85%以上、普-07:90%以上	②普-03:90.8%、普-04:100%、普-05:94.7%、普-06:91.5%以上、普-07:100%	すべての事業において「満足した」「ほぼ満足した」「良かった」「楽しかった」などと、事業に対する満足度について高評価を示す回答の層が目標値を達成し満足度の高い事業とすることができた。		
	【指標③】事業来場者、公演鑑賞者の総参加数を計測	③普-01:6,000人、普-02:2,500人、普-03:1,400人、普-04:150人、普-05:590人、普-06:600人、普-07:40人	③普-01:6,821人、普-02:2,607人、普-03:1,207人、普-04:159人、普-05:1,205人、普-06:631人、普-07:146人	普-03を除き、目標値を達成することができた。 特に普-05・07事業については、目標値を大幅に超える来場者、参加者を得ることができた。		
	【指標④】事業参加者、公演来場者の新規来場者数の比率をアンケートで計測	④普-03:20%以上、普-05:17%以上、普-06:20%以上、普-07:20%以上	④普-03:18.6%、普-05:36.5%、普-06:56.2%、普-07:64.7%	普-03を除き、目標値を達成することができた。 劇場未経験者をメインターゲットとする普-05のほか、バリアフリー事業や講座事業において想定2倍を超える新規来場者を獲得する事ができ、事業の波及効果の拡大を図れた。		
	【指標⑤】事業参加者、公演来場者のリピーター数の比率をアンケートで計測	⑤普-03:60%以上、普-05:63%以上、普-06:60%以上、普-07:60%以上	⑤普-03:81.4%、普-05:63.5%、普-06:43.8%、普-07:35.3%	普-03・05について目標を達成し、普-06・07については【指標④】の新規来場者数が想定2倍を超えたため、リピーター数は未達成であった。 普-03については事業企画として開館当初より実施されているため、多くのリピーターに支えられている事も示唆された。 未達成の事業は【指標④】においては、目標を達成をしているため多面的な見方をすれば、新規来場者を獲得するためには、これまで招へいしていないアーティストの企画や、ワークショップとして取組みの無いジャンルを実施するなどの方法が有効であるという知見が得られたものと評価する。		
	【指標⑥】関係者(受け入れ先等)による評価	⑥普-01・02・04:「また実施してもらいたい」との回答が90%以上	⑥普-01・02・04:すべて100%	普-01・02・04:すべてにおいて受け入れ先の担当教諭、担当保育士、担当職員からそれぞれに事業実施に対しての継続の希望を100%得られた。引続き各教育機関と連携し事業を進めていく。		
	【指標⑦】パティオ登録アーティストの活動への評価	⑦普-01・02・05:回答者からのアンケートの高評価選択または高評価コメントが回答者全体の90%以上	⑦普-01・02:100%、普-05:92.9%	当会館のアーティストバンクである登録アーティストを含めた、出演者に対する評価については、いずれも目標値を超える高評価を得ることができた。引続き評価を得られるプログラムを提供していく。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・普-04事業「パティオちりゅう知立団地放課後クラブ」は、外国籍住民が多いとされる愛知県内において外国人比率が県内で4番目に高い(7.97%・令和5年12月時点)という当地域の特性にあわせて実施するものであり、劇場が多文化共生事業として取組む事例として、外国籍住民に対するアウトリーチ型のワークショップとして、立上げ当初は全国的にも珍しい事業だと評価された。立上げから3年が経過し、その間、講師選定、適正な実施時期、プログラム内容を実施を重ねる中で見極めていき、京都の劇団「烏丸ストロークロック」で俳優をしながら、「表現あそびの会」を主宰し子どもたちと一緒に演劇を通して「表現する」ことの楽しさを伝える「阪本麻紀」を講師として招へいする事とした。今後はこのスタイルで企画を継続していく。
・経験豊かな3名の事業係スタッフを中心に、全ての事業が取組まれ目標にに対してその多くを達成することができた。特に普-01・02「アートで育む“ひと・こころ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」」および普-04「パティオ多文化共生事業2024 パティオちりゅう知立団地放課後クラブ」においては、全ての現場を職員が立会い、“実演家-参加者-実施先担当者”との間を取り持ち円滑に運営が進められるよう心配りをしている。劇場外における現場での経験は、制作者としての成長の場でもあり、創造性・企画制を育んでいる。またコロナ禍以降で学校への事業のお届けが困難であった一部の支援学校も含め、全てのアウトリーチ事業を対面で実施することができた。
・【指標⑦】において、今回いずれの事業においても高評価を得たパティオ池鯉鮒のアーティストバンク「パティオ登録アーティスト」は、平成17年度の立上げより、地域住民からの依頼演奏や会館自主企画事業への出演等、実演家の立場から地域の文化芸術推進に寄与してきた。しかしながら今後は当劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストとの連携を視野に入れた新たな取組みを検討するために、次年度20年目の節目で解散する事とした。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
【指標①】外国ルーツの児童参加者数	①普-04: 毎回10人以上、のべ100人以上	①普-04: 夏休みの8月と全体人数が少なかった2月を除き各回10人以上、のべ127人参加	実施施設の特性上、施設への出席児童の人数が変動するため、毎回10人以上の目標値は一部不達成であったが、ほぼ目標値を達成したものと評価する。		
【指標②】外国ルーツ家庭からのアンケート回答において高評価をえる	②普-01・04: 高い評価が全体の80%以上	②普-01: 83.9%、普-04: アンケート実施不可	一部事業でアンケートが実施先担当者の負荷軽減のため実施不可となり、実績値として計上できなかったが、集計可能な事業においては目標値を達成した。		
【指標③】外国人の関心層の計測指標としてホームページのアクセス数	③ホームページ(英語版)アクセス数の5%増加 ホームページ(ポルトガル語版)アクセス数の10%増加	ホームページ(英語版)アクセス数(表示件数)の225件 ホームページ(ポルトガル語版)アクセス数(表示件数)の326件	グーグルアナリティクスの機能変更により令和5年度の統計数が、算出できなかったため比較できないが、英語版サイトとポルトガル語版サイトとでは、ポルトガル語版サイトが1.45倍閲覧されている。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・普-01「アートで育む“ひと・ところ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」for 小中学校」において、外国籍児童・生徒の保護者を対象としたアンケート「こどもアートふれあい事業 通信＆アンケート」による事業の認知度を計測する結果で、半数(R4: 50%、R5: 72.7%、R6: 60.9%)を超えるご家庭で当会館の実施する事業を認知している。このような事業や劇場への認知は貸館事業に関する事であるが、外国籍住民による施設利用もあり、ホールの利用だけで令和6年度中に大小ホール合わせて8件の利用につながっている。またその他のワークショップ室なども定期的な利用もあり、事業を通じた地域の外国籍住民へのアプローチが施設利用という形でもフィードバックされている事が期待される。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※評価指標：ホールを含めた貸館利用全体の満足度を調査する 目標:「満足している」の回答が90%以上に対して実績値90.2%(評価は指標⑫に記載) ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
【指標①】関係者(受け入れ先等)による評価(会館の重要度)	①普-01・02・04:「会館の実施する文化・芸術活動が地域にとって重要」との回答が80%以上	①普-01・02・04:「会館の実施する文化・芸術活動が地域にとって重要」との回答がいずれも100%	長年平成24年度から継続する普-01・02の事業に加えて、3年前から企画を始めた普-04事業についても「会館の実施する文化・芸術活動が地域にとって重要」との回答が得られたことから、地域にとって必要とされる施設等との連携ができているものと評価する。		
【指標②】関係者(受け入れ先等)による評価(受益者の前向きな行動変化)	②普-01・02:「鑑賞・参加後に前向きな行動が増えた」との回答が90%以上 普-04:「鑑賞・参加後に前向きな行動が増えた」との回答が80%以上	②「鑑賞・参加後に前向きな行動が増えた」との回答が普-01:100%、普-02:85.7%、普-04:100%	こどもたちへのアウトリーチ事業の展開の一つとして、文化芸術体験による効用として前向きな言動につながる事を期待して展開した。身近な担当教諭・担当保育士の視点による評価値は、幼児よりも小中学生について高くなる傾向にあった。		
【指標③】事業参加者の文化芸術への関心についてアンケートで計測	③普-01:「関心が高まった」との回答が85%以上	③普-01:「関心が高まった」との回答が91.0%	こどもたちへのアウトリーチ事業の展開の一つとして、文化芸術体験による効用として関心度の向上につながる事を期待して展開した。こども達自身に評価してもらったところ目標値を達成した。		
【指標④】参加者・来場者の内、知立市民のみを対象とし、地域の文化的な環境への満足度についてアンケートで計測	④普-03・06:「満足している」との回答が80%以上、普-05・07:「満足している」との回答が90%以上	④「満足している」との回答が、普-03:91.4%、普-05:92.6%、普-06:97.0%、普-07:75%	普-07事業を除き、目標値を達成することができた。 普-07事業のみ鑑賞企画でなく、ワークショップ企画であったことから、参加者層の中に社会的な関心度が高い層が、鑑賞企画よりもワークショップ企画など参加・体験の機会の充実を望む声である事も示唆される。		
【指標⑤】講師による、参加者の行動変化の観測と評価	⑤普-04:毎回の振り返りで、コミュニケーションの創出や、他者への理解度、寛容度など、概ね前回より向上する。成果と今後の課題を把握する	【成果】大切にしてきた3つのこと「想像する・伝える・みんなでつくる」が、全10回の中で、からだを通して伝わっていった など 【課題】リピーターも増えていくため、内容がマンネリ化せず、児童に楽しく参加してもらう工夫を検討していく。	3年目を迎えた本プログラムについて、これまで制作上の課題であった講師選定の問題や実施スケジュールなどについて、一定の達成を見ることができ、今後この体制で進めていける目途が立った。 講師とこども達の関係性が回を重ねる毎に、進展している事がアンケート等から示唆されるので、本アウトリーチプログラムを継続しつつ多文化共生事業のあり方を探っていく。		
【指標⑥】鑑賞者の行動変化による評価	⑥普-01:「他者との交流について意欲が増した(今日の感想や、自身の悩みなどを誰かに話したくなった)」との回答が80%以上	⑥普-01:「他者との交流について意欲が増した(今日の感想や、自身の悩みなどを誰かに話したくなった)」との回答が86.0%	この指標は【指標②】で計測した内容の、鑑賞者自身の自己評価としての側面があり、担当教諭からみた評価と、こども達が自ら感じている評価にずれがないことが示唆された。 文化芸術活動の体験を通して、学校や家庭等の場で社会性の成長が図られることを期待する。		
【指標⑦】事業協賛者数	⑦普-01・02・03・04・06:のべ協賛者数61件	⑦のべ協賛者数71件【内訳】普-01:32件、普-02:32件、普-03:3件、普-04:4件、普-06:0件	全ての事業において支援を受けるに値する企画であるという自己評価より、新規と継続含め4事業で展開したところ、新規で協賛を受け付けた事業でも新たな支援者を獲得した。(ただしうち1事業は0件)。新たな支援者の拡大は難しい状況であるが、不況の中でも継続的に支援を得られていると評価する。		
【指標⑧】連携する小中学校数	⑧普-01・02:市内幼保育園16園、市内小学校7校(全校)、市内中学校3校(全校)、近隣支援学校2校	⑧普-01・02:市内幼保育園16園、市内小学校7校(全校)、市内中学校3校(全校)、近隣支援学校2校	市域のスケールメリットを活かして、今年度もこれまで同様に会場で実施可能な市内の幼保育園、小中学校全ての教育機関と連携、事業を開催できた。 また、地域の中核劇場という視点より市外にある支援学校2校への展開も、大事な連携先として今後も継続していく。		
【指標⑨】バリアフリー事業の活動周知として劇場、近隣社協、近隣支援学校及び事業協賛者へ招待実施数とその招待に応じた人数	⑨普-06:劇場、近隣社協、近隣支援学校、協賛者等への招待案内数600件、うち応招待者50人	⑨普-06:招待案内数804件、うち応招待者53人(招待者同伴有料購入者7人含む)	いずれも目標を達成した事により、近年劇場プログラムとしてその重要性が増す、障がいのあるなしや年齢の制限など無く楽しめる「バリアフリー事業」のモデル企画を発信・公開する事で、近隣劇場を牽引する劇場としての存在感を示すことができた。		
【指標⑩】協力・連携する社会福祉協議会・福祉団体数	⑩普-06:協力・連携する社会福祉協議会・福祉団体数16団体	⑩普-06:協力・連携する団体数23団体【内訳】近隣社会福祉協議会7団体、福祉団体16団体	各団体との協力・連携度合いはそれぞれではあるものの、緩やかな協力関係であっても継続することで、関係性の進展につながる事も期待している。		
【指標⑪】県内実演家、実演団体による公演数	⑪普-01・02・05:40公演	⑪県内実演家・実演団体による公演数は全41公演であった 【内訳】普-01:17公演、普-02:19公演、普-05:5公演	文化芸術の地産地消といえる視点で、地元の実演団体を支援するという観点が地域の文化拠点として重要であることと、地域と実演団体とがゆるやかにつながっていく事も期待されるので継続していく。		
【指標⑫】貸館利用者の満足度	⑫貸館利用者へのアンケートによる助成最終報告時点での集計において「満足している」「やや満足している」の層が90%以上	⑫貸館利用者へのアンケートによる助成最終報告時点での集計において「満足している」「やや満足している」の層が90.2%	貸館利用者による評価については、利用する施設・設備面での視点のほか、接客面や劇場自体の活動内容(自主企画事業など)への評価なども影響するためそれらの総合力を養う事を今後も継続していくと共に課題である老朽化への対応にも努めていく。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・【指標①】において、普-01:アートで育む“ひと・ところ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」for 小中学校、普-02:アートで育む“ひと・ところ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」for 幼保育園、普-04:パティオ多文化共生事業2025パティオちゅう知立団地放課後クラブのそれぞれの事業において、「会館の実施する文化・芸術活動が地域にとって重要」と評価されるものも、文化芸術の鑑賞や体験を通して得られる各種の効用はもちろんの事、事業実施に向けての担当教諭、担当保育士、担当職員との情報共有や、本番日の現地立会いによる様々な支援に対しても評価されたものと解している。今後もこの信頼関係の下、担当者の変更があっても施設同士の絆が継続される連携を進めていく。
・【指標②】、【指標⑤】、【指標⑥】において、鑑賞者・参加者の前向きな行動変容についてアンケートや講師の見解を通して評価した。対象となるのは普-01、普-02および普-04事業であり、担当保育士が評価した園児たちの行動変容についてののみわずかに目標を達成していないという結果であった。この事は、普-02事業における目的の主眼点が「園児にとって文化芸術の原体験となることから、うれしい・面白い・楽しいといったポジティブな感情を湧き起こす作品・演奏プログラムを中心とする」という点に向けられているため、無邪気な幼児期の子どもたちの行動変容の違いという点で顕現化しづらかった事も示唆される。一方で普-01事業の対象である、小中学校の児童・生徒については、教師側・児童生徒側共に目標値を達成できた。特に児童生徒が「他者との交流について意欲が増した(今日の感想や、自身の悩みなどを誰かに話したくなった)」と、自己評価している事はコミュニケーションを通じた社会性の発露とも捉えられ、個々人の学校生活や家庭生活などにおける様々な機会を創出する行動へとつながる事が期待できるので、特に評価したい。
・【指標⑦】、【指標⑧】、【指標⑨】、【指標⑩】、【指標⑪】で評価した福祉・教育団体等の連携や地域・実演団体との繋がり観点では、全ての指標において目標を達成し企画した連携等について推進できる事は評価したい。一方で普-06事業に対する協賛が得られなかった事や、同事業において限定的な連携に留まっていた団体との連携内容が深まった事などを勘案すると、これらの事業推進のための連携や繋がりについては、むやみに増やす事が最上ではなく事業内容や規模、担当者の状況等で、選択や集中を図り事業の最適化に向けての精査する事も重要である。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
【指標①】こども達の多様な趣味嗜好と無限の将来性に配慮した、アウトリーチプログラムの6年周期によるジャンルローテーション(①演劇(人形劇)、②音楽、③伝統芸能、④演劇(人形劇)、⑤舞踊、⑥ニューパフォーマンス)	①普-01:令和6年度は音楽分野でプログラムする	①普-01:小中学校のプログラムは音楽分野で実施した	具体的な音楽事業のプログラムとしては、オペラシアターこんにゃく座『ルドルフとイッパイヤッテナ』、フィルハーモニア・ナゴヤ「特別編成コンサート」、サクソフォンカルテットAdam「特別巡回コンサート」として実施し、どの事業も好評を得た。		
【指標②】若年層の利用者数(子どもの参加者数、中学生以下チケット・親子ペアチケット・25歳以下チケット販売数)	②普-05:200人、普-06:60人	②普-05:316人(3歳未満児含む)、普-06:82人(25歳以下チケット購入者のみ)	普-05事業では入場券では年齢種別のカウントが取れず、また普-06事業では障がいのある方チケットにおいて、同様であったため、前者は3歳未満児のカウントによる人数と、後者は年齢チケット(25歳以下)の購入者のみでのカウントであり、実数としてはその分を割り引いた数値での目標達成となった。		
【指標③】アウトリーチ事業の実施数	③普-01:市内小中学校10校、近隣支援学校2校、計26公演、普-02:市内幼保育園16園、計19公演、普-04:1カ所計10回	③普-01:計26公演、内訳:小学校16回、中学校3回、愛知県立安城特別支援学校4回、刈谷市立刈谷特別支援学校3回 普-02:計19公演、内訳:幼・保育園3園×2回、幼・保育園13園×1回 普-04:1カ所(昭和児童センター)計10回	普-01・02事業では、年度毎で若干の回数の変動はあるものの、徐々に適正な回数が定着してきたといえる。学校行事との兼ね合いの中で、無理のない実施計画は相互の良好な関係性の維持にとって重要であるため、事業成果の最大化を図るための適正化という点で今後も重要視していく。 普-04事業についても、2年間の事業立上げ期の試行期間を経て、講師選定・実施回数とも最適化を図れたものと評価する。		
【指標④】鑑賞サポートを実施する事業に対する支持率をアンケートで計測。	④普-06:支持率95%以上とする	④普-06:支持率98.1%	来場者へのアンケートによるバリアフリー事業への支援率について、「知っており支持したい」「知らなかったが支持したい」とする層が大多数をしめ目標値を達成した。昨年度も100%であり、若干の変動はあるものの高い数値を示す傾向にある。		
【指標⑤】社会的少数者に対する受容意識率をアンケートで計測	⑤普-06:受容意識率50%以上とする	⑤普-06:受容意識率62.7%	来場者へのアンケートによる障がいのある方の隣に座ったり話しかけたりしなければならぬような場面において「気にならない」と回答した受容意識高い層は、62.7%となり目標値を達成した。 昨年度は49.0%であり、作品に深く集中したい傾向のあるプログラムの場合は低下するなど、企画内容と相関性のある変動が示唆されそうである。		
【指標⑥】障害者差別解消法に対応	⑥全事業:チラシ等案内物に関連する案内文を記載する、障がい者割引の無い事業については、一定の条件を満たす付き添い者を招待とするとともにその応招待者3人を目標とする	⑥全事業:チラシ等案内物に「鑑賞(参加)にあたり障害にかかる(関わる)サポートが必要な方は事前にお問い合わせください」の案内文を記載した。障がい者割引の無い事業については、一定の条件を満たす付き添い者の招待については、本事業はじめ全体についても申し出がなかった。	全ての事業において、鑑賞者としての障がいのある方を、取りこぼさないという姿勢としては、ささやかな「一文」の記載ではあるものの、年間を通し助成対象事業以外の公演についても対応したため大きな一歩をふみだせたものと評価する。 付き添い者招待については、今回は実績を得られなかったものの、継続する中で今後実績が得られるよう努めるものである。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・普-01「アートで育む“ひと・こころ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」for 小中学校」は、こどもたちの多様な趣向性に配慮し、年度毎に文化芸術分野を変えて、それぞれの分野の良質なプログラム候補を提案し、各学校で選定していく形が定着した。企画制作という観点では、提案する候補作の選定を毎年実施する事になるため、労力を要する面や、それぞれの分野に焦点が当たるのが3～6年周期となり実演団体の支援という観点では依頼が分散する面もある。一方で事例紹介として披露した際の劇場関係者からは好評を得ており、学校関係者にも好評であるため今後も継続していく。
・普-06「知立市手話言語条例策定5周年記念 バティオバリアフリー事業2024『手話フェス-Song of Sign vol.4- in Chiryu』」を取り上げた、令和6年度のバリアフリー事業に関しては、この事業独自の指標として「鑑賞サポートを実施する事業に対する支援率をアンケートで計測【指標④】」および「社会的少数者に対する受容意識率をアンケートで計測【指標⑤】」を実施している。 これらのデータは事業内容や来場者層によって変動する傾向があり、特にフェス形式で多くのアーティストが参加する形態となった今回は、大幅な変動の可能性はあったものの多くの方に事業に対する支援いただけた事は評価したい(【指標④】)。 また【指標⑤】については、身体に障がいのある人、精神病にかかっている人、知的能力に障がいのある人に対する受容意識について、こちらもフェス形式での開催で下振れする可能性があったものの、多くの方に理解を示していただき、事業の意義にもつながったと評価する。 さらに、手話言語条例を制定する自治体として、節目にその「周年記念」をタイトルの冠とする事で、地域住民に周知する事が出来るので、それらの活動を通じた共生社会の実現に貢献できるものと期待する。
・【指標⑥】に関する視点では、バリアフリー事業の実施を続ける事で、聴覚に障がいのあるお客様に接する機会が増えたこともあり、職員の自主的な学びの機会として朝礼時に「ミニ手話講座」を実施している。この事は、職員の接客意識の向上に資するものでもあるので、今後も継続していく。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	貸館事業の利用率安定化による事業費原資の確保と助成金・協賛金の獲得を維持		貸館事業の利用率安定化による事業費原資の確保と助成金・協賛金の獲得を維持	適正に進める事ができた、協賛金獲得事業については手広くした面があるので精査していく		
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	事業の特色・対象に応じた、広報手法選択の適正化を図っている		事業の特色・対象に応じた、広報手法選択の適正化を図っている	適正に運営できた、今後ますます重要とされるWEB主体の広報へのシフトについても、徐々に移行を図れている		
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	市内民間音楽堂のほか、愛知県内および西三河エリアを中心とした連携・協力・支援を推進		市内民間音楽堂のほか、愛知県内および西三河エリアを中心とした連携・協力・支援を推進	事業プログラムによる、連携先の変化はあるものの主に県内、西三河エリアを中心に連携活動をすすめられた		
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	月1回の設置者担当課との情報交換を核に、劇場運営における密接な関係を継続		月1回の設置者担当課との情報交換を核に、劇場運営における密接な関係を継続	担当課との情報交換会のほか、組織の重要課題については、市長部局とのコミュニケーションも実施できている		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	指定管理者制度に移行後、事務局長が芸術上の監督者として、その役割を担う		指定管理者制度に移行後、事務局長が芸術上の監督者として、その役割を担う	芸術上の監督者として適正にその任を継承するとともに、事業プログラムの決定と推進に努めた		
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	財団を設立した知立市の職員がその任に就く理事長が劇場経営を統括する		財団を設立した知立市の職員がその任に就く理事長が劇場経営を統括する	適正にその任を継承するとともに、代表理事としての経営責任を果たしている		
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	新たな人材は、正職員として雇用し、運営体制の維持継承が図れるマルチな人材育成を推進		新たな人材は、正職員として雇用し、運営体制の維持継承が図れるマルチな人材育成を推進	令和7年度に向けて、職員2名の採用を計画し無事採用できたので、配属先にあわせて人材育成を進める		
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	事業係と管理係という組織体制のもと、職員の適性や人材育成の観点もふまえた職務分掌を実施		事業係と管理係という組織体制のもと、職員の適性や人材育成の観点もふまえた職務分掌を実施	各係で必要な専門性に合わせた、人材養成と組織のありたい姿に向けた配置計画などを適正に進める事が出来た		
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	人員採用は欠員補充となっており、その際は新卒採用を前提とするため、若年層の採用となる		人員採用は欠員補充となっており、その際は新卒採用を前提とするため、若年層の採用となる	管理係の欠員補充者(経験者)の採用と、次年度にむけて新人2名を採用した		
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	リーダーという職務の女性はいるが、管理職登用には至っていない		リーダーという職務の女性はいるが、管理職登用には至っていない	代表理事が女性ではあるが、生え抜き職員を対象として、ジェンダーバランスに配慮していく		
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	育児・介護に関する規則等を定め、その規定の範囲内で運用している		育児・介護に関する規則等を定め、その規定の範囲内で運用している	規程にもとづき、子育て環境にある職員のシフトへの配慮など、適正にすすめられた		
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	情報公開・個人情報規則等を定めその遵守にあたっては、研修等を活用しつつ運用している		情報公開・個人情報規則等を定めその遵守にあたっては、研修等を活用しつつ運用している	規程にもとづき、プライバシーポリシーの順守など、適正にすすめられた		
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	この項目に関する指針がなく、研についても不足している。	指針策定に向けた調査及び、OFF-JTによる研修についても実現を図る。	現状就業規則の条文のみで、当該項目に関する指針なし、研修の参加は実施・推奨している	研修参加で得た、ハラスメントガイドブックに基づき、職場内研修を実施した		
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	汎用性の高い契約書類を整備し、それに基づき運用すると共に、必要により条文修正の対応を実施		汎用性の高い契約書類を整備し、それに基づき運用すると共に、必要により条文修正の対応を実施	契約書様式に基づき、ケースバイケースにも対応しつつ適性に契約を交わすことができた		

4. 総評

・ 団体の自己評価

【採択事業一覧】
普-01:アートで育む“ひと・ところ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」for 小中学校
普-02:アートで育む“ひと・ところ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」for 幼稚園
普-03:ふれあいコンサート
普-04:パティオ多文化共生事業2024 パティオちりゅう知立団地放課後クラブ
普-05:ちりゅうシアター・スタート2024 パティオDE夏休み
普-06:知立市手話言語条例策定5周年記念 パティオバリアフリー事業2024 「手話フェス-Song of Sign vol.4- in Chiryu」
普-07:シアターカレッジ アートDEコミュニケーション 多世代コミュニケーション かみしばい師になろう！
【自己評価】
・「文化芸術活動の拠所として個々人並びに地域社会に貢献する」というミッションのもと、当会館の自主事業に関する4つのビジョン、知立市文化芸術基本条例の基本理念及び知立市文化芸術推進基本計画をふまえ、7つの採択事業を推進し概ね当初の目標を達成することができた(全指標28項目中、評価S:20項目、評価A:6項目、評価B:1項目、評価C:0項目、評価D:1項目(※測定不能のため))。

・各採択事業においての、当会館ビジョン及び文化芸術推進基本計画への主な対応状況は以下の通りで、いずれも当初の計画通り推進することができた。

普-01:自主企画事業のビジョンⅡ:地域の魅力の発信を推進する(文化遺産や住民参加型による創造事業の実施を通して、地域への愛着を醸成するとともに文化芸術を核とする緩やかなコミュニティの形成を進める)並びに、自主企画事業のビジョンⅢ:劇場発のアウトリーチを展開する(次代を担う子どもたちが文化芸術にふれあう機会を通して豊かな人間性・社会性・創造力が育まれるよう幼稚園・小中学校に文化芸術体験を届ける)に特に対応した事業。
「知立市文化芸術推進基本計画」の重点施策・重点1「子どもが様々な文化芸術に親しむことができるまち」並びに、重点2「知立の山車文楽とからくり」の継承・活用及び、基本施策1・1-4・③による共生社会の実現における、小中学生を対象とした鑑賞・体験づくりに特に対応した事業。

普-02:自主企画事業のビジョンⅢ:劇場発のアウトリーチを展開するに特に対応した事業。
「知立市文化芸術推進基本計画」の重点施策・重点1「子どもが様々な文化芸術に親しむことができるまち」並びに、基本施策1・1-4・③による共生社会の実現における、小中学生を対象とした鑑賞・体験づくりに特に対応した事業。

普-03:自主企画事業のビジョンⅠ:劇場事業の最適化を図る(芸術分野や対象世代などを単年度でなく中期的な視野でとらえたバランス感覚を重要視した企画構成を目指すことで、誰もが鑑賞・参加・創造できる環境を目指す)に特に対応した事業。
「知立市文化芸術推進基本計画」の基本施策1・1-1・①によるだれもが鑑賞・参加・創造できる環境づくりにおける、気軽に文化芸術にふれる機会づくりに特に対応し特に対応した事業。

普-04:自主企画事業のビジョンⅢ:劇場発のアウトリーチを展開する並びに、自主企画事業のビジョンⅣ:社会課題を意識した事業の推進(社会的少数者といわれる外国籍住民や障がいのある地域住民等との共生社会の実現に貢献するバリアフリー事業、多文化共生事業に取り組む)に特に対応した事業。
「知立市文化芸術推進基本計画」の重点施策1「子どもが様々な文化芸術に親しむことができるまち」・重点施策4「文化芸術を通じた多文化共生への試み」及び、基本施策1「だれもが鑑賞・参加・創造できる環境づくり」1-4「共生社会の実現」②小中学生を対象とした鑑賞・体験の機会づくり・④障がい者・外国人市民等が参加・体験しやすい機会づくり・⑤文化芸術を通じた社会包摂への取組、基本施策3「文化芸術を支える基盤づくり」3-3「人材の育成」④次代人材の育成に特に対応した事業。

普-05:自主企画事業のビジョンⅠ:劇場事業の最適化を図る並びに、自主企画事業のビジョンⅢ:劇場発のアウトリーチを展開するに特に対応した事業。
「知立市文化芸術推進基本計画」の基本施策1・1-1・①によるだれもが鑑賞・参加・創造できる環境づくりにおける、気軽に文化芸術にふれる機会づくりに特に対応した事業。

普-06:自主企画事業のビジョンⅣ:社会課題を意識した事業の推進に特に対応した事業。
「知立市文化芸術推進基本計画」の重点施策・重点3「障がい者の文化活動の機会の充実」及び基本施策1・1-4・④による共生社会の実現における、障がい者・外国人市民等が参加・体験しやすい機会づくりに特に対応した事業。

普-07:自主企画事業のビジョンⅠ:劇場事業の最適化を図る並びに、自主企画事業のビジョンⅣ:社会課題を意識した事業の推進に特に対応した事業。
「知立市文化芸術推進基本計画」の次の施策に該当する。基本施策1「だれもが鑑賞・参加・創造できる環境づくり」1-1「鑑賞・体験の機会づくり」①気軽に文化芸術にふれる機会づくり④より深く鑑賞するための講座などの開催、1-4「共生社会の実現」③高齢者等が参加しやすい講座の開催・グループ活動の育成・④障がい者・外国人市民等が参加・体験しやすい機会づくり・⑤文化芸術を通じた社会包摂への取組に特に対応した事業。

・地域の劇場として採択事業推進のため、福祉・教育団体等の連携や地域・実演団体との連携や繋がり の充実を図る事ができた。その一方で、事業内容や規模、担当者の状況等で、選択や集中を図り、事業連携の最適化を図る事も有効であるため、その点を課題の一つとして捉えて事業にとってより効果的な連携の在り方を探っていく。

・ 所見

